



マリンタートル

Marine Turtler

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第17号





表紙の絵 植月茉莉亜

初めまして。昨年末より日本ウミガメ協議会の事務局長として奮闘しております植月茉莉亜と申します。今後、イベントや会議など様々な場所でお会いできると思います。どうぞよろしくお願いいたします。表紙の絵は皆様からの公募なのですが、最近事務所に絵が届くことがめっきり減ってしまいました。ここでは、ご挨拶も兼ねて描きましょう!ということで、オサガメの子供をスケッチしました。この可愛い子亀がいつか大人に成長するなんて、未だ信じられないのですが、そんな不思議な魅力にあふれたウミガメたちのことを、皆さんもじっくり観察しながら描いてみてください!沢山の絵が事務局に届くことを楽しみにしております!!

表紙の絵を募集しています!

皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなものでも構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ: B5
- 色: 自由。(仕上がりはモノクロになります。)
- 期限: 〆切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、お早めをお願いします。
- 応募方法: 大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先: 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
日本ウミガメ協議会 マリントートルー編集部
※メールの場合は info@umigame.org まで
件名に「マリントートルー表紙」と明記の上お送り下さい。

会報の名称マリントートルー(Marine Turtler)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きの人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリントートルーと呼ぶことを提唱したいと思います。

Marine
Turtler

Contents

ウミガメ基礎講座 16	3P
「隠れられない」 石原孝	
マリンタートラー列伝	4P
「山城親介さん」 亀崎直樹	
ウミガメの民俗 11	5P
山口県長門地方のウミガメの民俗－「亀地蔵」を中心に－ 藤井弘章	
第32回国際ウミガメ学会参加報告 大内裕貴	7P
北西太平洋アオウミガメ会議開催報告 岡本慶	8P
第22回日本ウミガメ会議(沖永良部会議)報告 植月茉莉亜	9P
第23回日本ウミガメ会議(志布志湾会議)のご案内	10P
近況報告(黒島研究所・室戸基地・奄美大島・紀宝町ウミガメ公園)	11P
悠ちゃんプロジェクト2011	13P
インターンシップ報告	14P
事務局の主な動き	15P
ご寄付を頂いた方々	16P
Seaturtle goods shop	
STSmembers募集中! & STSmembers更新手続きについて	
編集後記	

「隠れられない」

主任研究員 石原 孝

カメといえば甲ら、甲らといえばカメ、というようにカメと甲らは切っても切れない関係です。その甲らについて今回は少しご紹介しようと思います。カメと甲らについて、「(ヤドカリのように)甲らから体はぬけますか?」という質問されることがあります。とあるゲームソフトではマリ〇がカメを踏むと、甲らから体がツルリと飛び出しますから、その印象が強いのでしょう。しかし、現実のカメの甲らは脊椎(背骨)と肋骨などからできていて骨格そのものですから、甲らだけをツルンとは切り離すことはできません。カメは固く重たい甲らを背負い続けているのです。

ご存じのようにリクガメや淡水ガメでは身を守るために甲らに隠れます。骨や角質化した鱗板でできた固い甲らは防御力が高く、まさに籠城するための城のようなものです。頭や手足の出る部分から襲われる心配が残りますが、引っ込めたときに外側に出る鱗までが固く丈夫なリクガメの仲間や、甲らの腹側(腹甲)の途中が蝶番状になっていてパタンと隙間を閉じてしまうハコガメの仲間など、進化をさらに進めた仲間もいます。

それではウミガメはどうなのでしょう? 結論からいうと、ウミガメは頭や手足を甲らに隠すことができません。カメなのに、もちろん甲らは持っていますが、全くもって頭や手足を隠すことはできません。ウミガメが甲らに隠れられないのは、甲らが小さく頭や手足を隠すスペースが無いためなのですが、これは生涯を水中で泳ぎながら暮らすことに深く関係しています。水の密度が空気のおよそ800倍もあるために、進もうとするときの抵抗は陸上に比べて水中では非常に大きくなりますし、水を受ける面積が大きければ大きいほど抵抗も大きくなります。そのため大きな甲らでは水中で自由に動くことができないのです。そこでウミガメの甲らはより小さくより滑らかに進化することで水の抵抗を小さくしましたが、その結果、頭や手足を隠すスペースがなくなってしまったというわけです。

そうしてできた小さな甲らはウミガメにカメとしての根本的な戦略を捨てさせました。そもそも甲らの利点は高い防御力で外敵から身を守ることにあり、欠

点は重くかさばるために外敵からは逃げにくくなることにあります。そのためカメの外敵に対する基本戦略は、逃げるよりも甲らに籠城することになります。それなのに、ウミガメは甲らに隠れることができないのですから、甲らの利点を生かしきれません。危険を感じたら甲らを背負ったまま逃げるか隠れるかするしかないのです。確かに、本気で逃げるウミガメは飛ぶように泳ぎ去り、すぐに見失うほど速く泳げます。やはり海の中の環境に適応してきたのだなど、感動もします。しかし、魚に比べるとやはり小回りやスタートダッシュは苦手なようです。止まった状態や急激な方向転換の後では、1-2回羽ばたいてようやく体が前に飛んでいきます。サメなどに狙われたら、逃げ切ることは難しいでしょう。これではいつそのこと、ウミガメに甲らはない方が素早く動けるようになっていいんじゃないかとさえ思ってしまう。しかし、骨格ごと変化して甲らを持たないのがカメだけであつたように、その甲らをなくすこともまた進化上難しいでしょう。また、イタチザメに襲われたアカウミガメがサメに背甲を向けながらヒレを水面上に出して防御の姿勢をとっていた、という報告もありますから、あながち甲らがあることもムダではないようです。

頭隠して尻隠さずどころか、頭もおしり(尻尾)も手足もすべてを隠せないウミガメですが、最初のウミガメ、サンタナケリスが1億1千万年前に登場してから、大きく姿を変えることなく今に続いて来ました。水中を泳ぎ回って暮らすにはハンディキャップのようにも思える甲らを背負いながらも、太古の昔から一貫するウミガメの生き方にはなかなか底が見えません。



泳ぐのに小さくした甲らには頭や手足を隠せない(写真はアカウミガメ)。

「山城親介さん」

亀崎 直樹

私が山城親介さんと出会ったのは、1983年のことであった。石垣、登野城の山城さんの家に近づくと、何となくカメ臭がし、そしてホルマリン臭が鼻をついた。山城さんは腕のいい剥製屋さんであった。登野城といえば海人の集落。当時は、朝になると電灯潜りの海人が、カメをもって、山城さんの家の庭においていった。普通の町の民家の入口に、アオウミガメやタイマイが仰向けにされて、何頭も転がっている風景は、今ではどこでも見られなくなった。

沖縄では新築祝いや開店祝いにウミガメの剥製を贈る風習がある。今でもその名残はあるが、沖縄や八重山のお土産物屋にはカメが並び、大きさにもよるがアオウミガメでも5-10万、タイマイになると10万円以上、場合によっては数十万円の値段がついていた。山城さんは、週に何日か、このカメの剥製作りをしていた。ちょっと残酷である。腹甲にそって体の前部と後部に切れ目をいれて、そこから内臓をとっていく。小刀とバールで、うまく内臓を引き出す。皮膚から筋肉を丁寧に取り去り、その後はしばらくホルマリン液につける。この液体はホルマリン以外に色んな薬剤が入っているらしいが、それは秘密であった。

固定と防腐処理が完成すると、剥製の組み立てである。中に木くずを詰めながら、うまく成形をしていく。山城さんの剥製の特徴は、首と前肢が比較的引き込まれていることである。後肢はピンと広げられ、木の板に打ち付けられる。そして、乾燥したあとに、甲羅が磨かれる。雇われた近所のオバアが、サンドペーパーとグラインダーで磨きをかける。そしてワックスをかけられた剥製は、石垣や那覇のお土産屋に売られていた。

アオウミガメの内臓や肉は、汁になって山城家の食卓に上っていた。井ぶりに内臓を中心に山盛りになってつがれる。私がそれを初めて御馳走になった時には、山城さんは、これは肺、これはキモ(肝臓)などと教えていただいた。子だくさんの山城家の子どもたちは、皆、カメの汁が大好きだった。

山城さんには博物学の素養と好奇心がある。例えば、タイマイの腹から卵が沢山出てきたことがあった

という。山城さんは一斗缶に砂をいれて卵の孵化を試みたという。卵は一部を除いて孵化し、山城さんは子ガメを海に逃がしに行ったという。また、アオウミガメの腹にはジャングサ(リュウキュウスガモなど)と食べているものと海藻を食べているものがあること。また、タイマイの消化管の中は棘(カイメンの骨片)があつて危ないから触ってはいけないとも教えてくれた。また、アオウミガメににたドロガメというカメがいることも認識しておられ、最近になって議論になっているクロウミガメを想起させる話もしてくださった。

山城さんは元々海人であった。若いころはアラフラ海までタカセガイ(ボタンの材料になる)や海人草をとりにいっていた。仲間がサメに襲われたり、フィリピン軍に拿捕されたこともあったという。そんなグローバルで危険な経験をしたあと、器用だった山城さんは独自にウミガメの剥製の技術を開発したという。その経験は、歴史的に貴重であろう。一度、ゆっくりと話をききにいかねばど思っている。



1990年頃の山城自宅の作業場の光景(もちろん今は見られない)



ウミガメ剥製と山城親介氏と筆者

山口県長門地方のウミガメの民俗—「亀地蔵」を中心に—

藤井 弘章

山口県の萩といえば江戸時代の街並みが残る城下町として知られています。この萩市周辺にはカメ形石造物の背中に地蔵が乗る「亀地蔵」なるものが多数存在しています。ウミガメの民俗としては興味深い存在といえます。しかし、これまでは地元で刊行された報告書などにわずかに記載されるだけでした。今回は、「亀地蔵」を中心にして、山口県長門地方におけるウミガメの民俗を紹介してみましょう。

日本海側では、鳥取県、兵庫県、京都府、新潟県などにウミガメの祠、墓が存在しています。いずれも、特定の地域に集中的に分布する傾向があります。山口県もウミガメの祭祀・供養が集中的に分布する地域といえます。ただし、隣の島根県には今のところ、ウミガメの祠や墓は1つも見出していません。山口県でも、萩市から西側では、下関市豊浦町小串に「亀堂」があるぐらいです。これは、江戸時代末期に作られたと思われる石の祠で、現在でも江戸時代と同じく11月16日に祭りを行っています。ただし、由来は不明です。山口県では、萩市から東の阿武町、旧須佐町、旧田万川町にかけての地域にウミガメの祠・墓が集中しているのです。

萩市大井・浦の周鷹寺には明治2年に建立された巨大な「亀地蔵」があります。地上からの高さは約250センチ。山門の左側に鎮座しています。明治初年のことなので、詳しいことはよく分かりません。「鱒網仲間」が建立にかかわっているため、おそらく、大敷網にかかって死んだウミガメを埋葬・供養したものと思われます。萩市周辺に残る「亀地蔵」のなかでは最も古く、最も巨大なものです。

次に古いのは、明治14年建立の「亀地蔵」で、阿武町木与の万寿寺の境内にあります。これも、台座に刻まれた名前などから判断すると、大敷網にかかって死んだウミガメを埋葬・供養したものと思われます。時代順に取り上げると、明治21年、大正8年、昭和2・8年、昭和38年の「亀地蔵」が存在します。このほか、年代がは

っきり分らない「亀地蔵」もあります。明治21年のものは、旧須佐町の個人が祀っています。漂着したウミガメを祀ったようです。大正8年のものは、阿武町宇田の興昌寺の境内にあります。これも台座に「鱒網中」と刻まれていることから、大敷網にかかったウミガメを埋葬・供養したものと思われます。昭和2・8年の「亀地蔵」は、阿武町奈古の仮嶋神社境内にあります。これも大敷網にかかったウミガメの供養のようです。年代が分らない「亀地蔵」は、萩市大井・湊の観音堂、萩市越ヶ浜の墓地にあります。

以上の「亀地蔵」については、文書も残されておらず、明確な伝承も残されていません。建立された経緯が分かるのは昭和38年の「亀地蔵」です。これは、阿武町木与の万寿寺境内にあります。明治14年建立の「亀地蔵」と並んで立っています。新しい「亀地蔵」は、昭和38年の冬（2月3日に死亡）、木与の浜に漂着して死んだオサガメを祀ったものです。当時のことを知る住職によると、通常のカメとは違うために「気持ち悪い」という感情もあったといいます。当時、役場を通じて調べてもらったところ、オサガメという名前であることが分かりました。本堂に1週間ほど安置して、地元の人々に見学してもらったのちに境内に埋葬しました。同じ年の秋に、檀家からの寄付を受けて「亀地蔵」を建立したといいます。

ところで、萩市周辺では「亀地蔵」ではないウミガメ供養も存在します。旧田万川町江崎・尾浦の石切り場には、江戸時代か明治時代ごろに建てられたウミガメの墓がありました。これは石碑でした。萩市小原の浜には昭和12年の石碑、旧田万川町下田万・湊の浜には昭和39年、阿武町奈古・筒尾の海岸には昭和43年、萩市見島には昭和62年の石碑が残っています。阿武町宇田の海岸には昭和40年ごろの石碑があります。また、阿武町奈古の仮嶋神社には、3体の「亀地蔵」以外にも「亀社」と書かれた石碑や、自然石を置いただけの墓もあります。

このように見てくると、萩市周辺の地域でも、「亀地蔵」のみが存在するわけではないことが分かります。むしろ、自然石や石碑などのウミガメ供養がひろまっている中で、「亀地蔵」というものは明治初期から昭和30年代にかけて流行したウミガメ供養の形態であったように思われます。地域的に見ても、萩市越ヶ浜から旧須佐町にかけて分布しています。その西側の萩市小原、東側の旧田万川町には、「亀地蔵」ではなく、石碑の墓が見られます。時代的にも、地域的にも、限られた範囲で存在したのが「亀地蔵」といえそうです。全国的に見渡しても、カメの石造物や、カメの背中に石が乗るなどの例はあるものの、カメの背中に地蔵が乗るものは見たことがありません。きわめて特徴的です。

それではどうして、萩周辺で「亀地蔵」が発生したのでしょうか。記録がないためはっきりしたことは分かりません。ただし、最も古く、最も大きい周鷹寺の「亀地蔵」が契機になっているように思われます。周鷹寺には山門横に、カメ形石造物に乗った「不許葷酒入山門」（酒や臭いの強い野菜の持ち込みを禁止する意味）の石碑があります。江戸時代末期の建立のようです。このような石碑を参考に作られた可能性もあります。また、萩市にはカメ形石造物に石碑が乗ったものが多数存在します。萩藩主毛利家の墓が立ち並ぶ東光寺では、藩主の事績を刻んだ石碑をカメが背負っています。このほか、藩校明倫館などにもカメの背中に石碑が乗ったものがあります。周鷹寺の「亀地蔵」は、城下町萩に存在するカメの石碑をヒントにした創造物であるということが考えられます。また、「亀地蔵」を建立した当時の周鷹寺の住職は曹洞宗の本山で活躍するほどの優れた僧侶であったといえます。この人物が発案したと考えることができそうです。おそらく、萩周辺の大敷網には江戸時代からウミガメがかかることがあったでしょうし、死んだウミガメが漂着することもあったでしょう。それらは、この地方でも江戸時代から浜や寺院、神社などに埋葬することはあったのではないのでしょうか。埋葬するだけのことも多かったでしょうし、上に自然石を置くだけということも多かったでしょう。

「亀地蔵」以前からこの地方にウミガメ信仰があったことをうかがわせるものもあります。

阿武町惣郷・尾無の海中にカメの形をした石があるのです。これをリュウゴンゼ（龍宮瀬）といいます。今でも毎年11月10日に祭りを行います。現地ではこの祭りは、カメの供養、魚の供養と考えられています。尾無では現在でも死んだウミガメは埋葬しています。龍宮の神としてウミガメを祀り、死んだウミガメを埋葬する習俗が広がっているなかで、萩のカメ形石造物を参考にしながら明治時代に「亀地蔵」が発生したと考えられます。



1 周鷹寺の「亀地蔵」



2 万寿寺に祀られたオサガメの拓本

2012年3月13日から16日まで第32回国際ウミガメ学会（32nd Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation）がメキシコのフワトゥルコにて開催され、当会から松沢慶将と筆者が参加してきました。国際ウミガメ学会とは世界各国のウミガメ研究者や調査者が一堂に集まり、各国最先端のウミガメ研究や保全活動を報告しあい、今後の研究や保護政策の在り方などを討論、協議することを目的としています。今大会の開催国、メキシコはヒラタウミガメを除く6種のウミガメが産卵に訪れる“ウミガメ大国”として知られています。中でも、フワトゥルコは太平洋側に位置し、沿岸域には日本で生まれ北太平洋を横断してきた未成熟なアカウミガメがやってくるという日本と縁の深い場所でもあります。

学会初日は特別講演としてメキシコにおけるウミガメ類の産卵状況や保全活動状況について現地の研究者や調査者から報告がなされたほか、期間中は生態学、遺伝学、進化学、行動学、保全の分野について世界中の研究者から口頭142題、ポスター200題の計342題の大変興味深い発表がなされました。今年は保全活動に関する発表が多く、口頭発表では全142題のうち39題（約28%）を占めました。当会からは、松沢が「日本沿岸におけるウミガメ混獲の削減のための定置網脱出装置の開発」について、筆者が「アカウミガメの産卵行動は経験によって変化するのか？」について、それぞれ口頭発表を行いました。また当会の石原孝は欠席となりましたが、「四国沿岸における混獲状況から推定されるアカウミガメの季節的分布」についてポスターを張り出しました。筆者は初めて国際ウミガメ学会に参加しましたが、この学会の醍醐味は、自国のウミガメ研究状況を広く世界の研究者や調査者へ伝えることができるだけでなく、様々な国の方から多様な視点で研究のアドバイスや意見をもらえることだと感じました。発表が終わった後、今学会で知り合った研究者たちから想像もしていなかった意見を寄せられ、やはり自分の中だけであれこれ考えて研究しているだけだと、視野が狭くなってしまうことを痛感しました。研究内容と英語力を磨いて、ぜひ次回の国際学会にも挑んでいきたいと思わず拳に力が入ってしまいました。

次回、第33回国際ウミガメ学会は来年の2月3日から8日にかけてアメリカ合衆国のボルティモアにて開催される予定です。きっと新たな発見と貴重な出会いがあると思います。ぜひ足を延ばしてみたいかがでしょうか。



日時:2012/4/17-19 場所:神戸市立須磨海浜水族園

アオウミガメが草食性で、日本沿岸でも海藻や海草を食していることは皆様ご存知のことと思います。また、本種が小笠原諸島や南西諸島で産卵すること、近隣のフィリピン、マレーシアなどにも広く産卵地を持つことをご存知の方も多いでしょう。しかし、本種のその他の生息域等に関する情報となると、ほとんどの方が?となるのではないのでしょうか。これまで体系的な研究がなされてこなかったことによるものです。ところが近年、日本沿岸に存在する多くの豊かな藻場には、ミクロネシアなど西太平洋の様々な産卵地から来遊したと考えられる個体が含まれるなど、日本沿岸は重要な餌場であることが明らかになってきました。どうやら、北西太平洋域を広く回遊しているようなのです。そこで、本会議ではフィリピン、グアムなどから研究者を招聘し、国内の研究者を交えて、日本を含む北西太平洋域における本種の現状について意見交換するとともに、情報を共有し、協力関係を築くこと、今後の保全策について議論することを目的として行ないました。

本会議では、フィリピンのNilo Ramoso氏とサモアのTitimanu Simi氏は、両国沿岸の藻場には幼体から成体まで様々な個体が多く生息していること、グアムのShawn Wusstig氏からは工事に伴う砂の流入やジェットスキーなどのレジャーにより、藻場が失われていること、ミクロネシアのJennifer Cruce氏はヤップ島から放流した個体が西方の様々な国の沿岸に回遊していること、台湾の程一駿氏からは海中で発見した個体を鱗板の並び方から個体識別をしていることをそれぞれご講演いただきました。また、日本の状況については、京都大学の浜端朋子さんに遺伝的解析についてお話しいただいたほか、当会からは松沢慶将が研究の歴史、亀田和成が八重山、石原孝が室戸におけるそれぞれの現状、島田貴裕の代理として亀崎直樹が安定同位体比分析による本種の食性、筆者が形態と分類について紹介しました。本会議で明らかになったことと今後進めたいかねばならないことは、海域内の個体間にも海域間の個体間にも色彩変異が認められることやどの地域もpitタグが多くの個体に挿入されており、日本でもその挿入と読み取りをする必要があることなどです。今後、これらを基に、互いに協力しながら研究を進めていきたいと思えます。

ここからは余談ですが、海外からの講演者はみな気さくな方ばかりで、終始和やかに進みました。また、初日の夜にはお酒を片手に親睦を深め、ビールが世界共通のコミュニケーションツールであることを再認識したほか、中には会場である須磨海浜水族園から電車で15分ほどの三宮に、毎晩出かけ、日本食やお酒を堪能するなど、みなさん日本滞在を満喫され、帰途に就かれました。

最後に、本会議は三井物産環境基金からの支援を受けて実施しました。また、神戸市立須磨海浜水族園の皆様、通訳をして下さった小松聖児さん、高瀬麻以さん、齋藤稔さんには大変お世話になりました。そして、多くの方々が本会議にご参加くださいました。この場を借りて、御礼申し上げます。ありがとうございました。



各地域の現状と今後の協力について話し合う講演者ら

第22回日本ウミガメ会議(沖永良部会議)報告

植月 菜梨亜

22回目の日本ウミガメ会議は、2011年11月18日(金)から20日(日)の3日にわたり行ないました。開催地は南西諸島のほぼ中央に位置する、周囲約49.3kmの東西に幅広い三角形をした沖永良部島です。離島ということもあり、例年に比べ参加者数は少なかったものの、沖永良部島の方々の陽気なもてなしを受け、老若男女入り混じった交流はいつも以上に熱いものになったと思える大会でした。

会議では、会場となった沖永良部島を含む南西諸島のウミガメについて語り合う公開シンポジウム「南西諸島のウミガメを考える」、昔話にも登場するほどの切っても切れない関係について議論した「ウミガメとヒトの関係」についてのシンポジウム、さらには、南アフリカより招待したGeorge R. Hughes 博士(国際自然保護連合名誉顧問)による特別講演「インド洋南部におけるウミガメの調査と保全活動」など様々な発表がおこなわれ、例年に負けず劣らず大いに盛り上がった大会でもありました。この他、日本ウミガメ誌2011には、アカウミガメの産卵地として知られる全国212箇所の砂浜写真をまとめた「アカウミガメ産卵砂浜の写真記録2011」を掲載しました。なおこの記録は、現在深刻な問題となっている砂浜環境の劣化に対する抑止力の一つになればという気持ちで、多くの方々のご協力を賜り、掲載するに至りました。

最後に、本大会を行うにあたり、多くの方々からご支援をいただきました。開催地である沖永良部島の皆様、ご協力・ご協賛等々をいただきました皆様、そして会議に参加いただきました皆様に心より御礼申し上げます。今回ご参加いただいた皆様も、そうでない皆様も、陸からたくさんの方々が遊泳する様子を観察できる、世界でも有数の「カメどころ」沖永良部島に是非訪れていただきたいと思います。

■会議詳細

名称 第22回日本ウミガメ会議(沖永良部会議)
主催 日本ウミガメ協議会
共催 沖永良部島ウミガメ会議実行委員会・和泊町・知名町
後援 環境省・水産庁・国土交通省・鹿児島県・南海日日新聞・奄美新聞・南日本新聞
参加者数 のべ450人(受付をされなかった地元無料参加者等は除く)
ウミガメ出前講座 6か所の小中学校で約330名に対して実施

■会議の流れ

18日(金) 午後 出前講座/島内観光
夜 交流会
19日(土) 午前 開会式/公開シンポジウム「南西諸島のウミガメを考える」
シンポジウム「ウミガメとヒトの関係」
午後 集合写真/ポスター発表/2011年日本のウミガメ/口頭セッション1
夜 懇親会
20日(日) 午前 特別講演「インド洋西部におけるウミガメの調査と保全活動」
George Hughes博士
(国際自然保護連合名誉顧問)
口頭セッション2/閉会式



第23回日本ウミガメ会議 (志布志湾会議) のご案内



23回を数える 2012年の日本ウミガメ会議は、鹿児島県大隅半島志布志湾を臨む志布志市にて開催します。

今大会では、志布志市が「ゴミのリサイクル率日本一」ということもあり、「ゴミとウミガメ」、また、ウミガメに携わる活動をされている方の多くが関わったことがあるでしょう「学校教育とウミガメ」の2つのテーマのシンポジウムを盛り込む予定です。2012年のウミガメを取り巻く現状とこれから私たちが取り組んでいくことのできる活動について、たくさんの意見を交わせることを楽しみにしております。また、海外からの招待講演はピーター＝プリチャード博士を予定しております。世界的なカメラ博士のコアな話が聞ける貴重な機会です。さらに、志布志市はウナギとしらすが特産品としても知られる漁師町です。旨い魚と旨い酒も堪能できる志布志に、ぜひ皆様お誘いあわせの上、ご参加ください。

開催日時：2012年11月30日（金）～2012年12月2日（日）

会場：志布志市文化会館

後援（予定）：環境省・水産庁・国土交通省・鹿児島県・志布志市

プログラム案

11月30日（金）1日目

砂浜観察／開会式／特別講演ピーター＝プリチャード博士／ナイトセッション

*参加者同士の交流を深めるために、例年とは少し違った趣向の交流会を企画中です！お楽しみに！

12月1日（土）2日目

一般講演／シンポジウム1「ゴミとウミガメ」

シンポジウム2「学校教育とウミガメ」／ポスター発表

シンポジウム3「2012日本のウミガメ」／懇親会

12月2日（日）3日目

志布志ふるさと祭り／一般講演／閉会

※会議詳細は随時当会ホームページにて更新します。 <http://www.umigame.org>

協賛広告のお願い

本年も日本ウミガメ会議の運営のためのご協賛を募集しております。
詳細はホームページ又は事務局までお問い合わせください。宜しく申し上げます。

各地で調査・活動を行っている当会スタッフの近況をお伝えします！



黒島研究所より

黒島研究所では、昨年に引き続き夏休み特別企画「うみがめ勉強会」を開催します。夏休み期間中は毎日、ウミガメの生態を解説後、八重山の海人が伝統的な漁法「カーミーカキ」で捕獲したウミガメを身体測定し、標識を装着して放流します。ウミガメや海洋生物が好きな方で夏休みに八重山方面へ旅行を予定されている方が身近にいらっしゃいましたら是非、黒島

をお勧めください。勉強会のお問い合わせは黒島研究所 0980-85-4341まで！昨夏は琉球大学ちゅらがーみや三重大学かめつぷりの学生たちも講師にチャレンジしたほか、共同研究のために訪れていた名古屋港水族館のウミガメ担当者の方たちの興味深いお話も大変好評でした。講師へのチャレンジを希望する会員の皆さまも歓迎します。写真はウミガメの剥製の前で解説をする名古屋港水族館のウミガメ担当の岡本仁さんです。昨年末、14年前に放流したアオウミガメがミクロネシアで再発見され、甲長が40センチ近く成長していました。この夏に放流するウミガメたちの再発見が楽しみです。



室戸基地より

4月より室戸調査基地に常駐となりました渡辺紗綾と河野希和と申します。私たちが調査している高知県室戸岬周辺の黒潮流域にはウミガメを始めとしたたくさんの海洋生物が生息しています。毎日行われている漁で獲れる魚の中にはブリやアジなどに混ざって深海魚のリュウグウノツカイやサケガシラ、希少種であるヒメイトマキエイなどが獲れることもあります。

このように生物相豊かな室戸の海を調査・研究していくと共に、様々なイベント等を開催し、今後情報発信をしていきたいと考えています。室戸でもこれからアカウミガメの上陸・産卵のシーズンに突入します。何頭のウミガメ達と出会えるか今から楽しみです。何でも骨格標本にしてしまう渡辺と、生き物を見つけるとつつい駆け寄ってしまう河野のコンビで頑張っていきますので、よろしく願いいたします。



奄美大島より

昨年まで大阪事務局にて事務局長をしていた水野です。2011年5月より大阪事務局から奄美大島に移動し、現在では奄美諸島のウミガメを含めた自然や文化等の調査・研究をおこなっております。奄美諸島には数多くのウミガメの産卵に適した砂浜が点在していますが、奄美大島周辺の砂浜を中心に、未だ数多くの砂浜が未調査となっております。ただし砂浜によって

は、集落の区長さんや犬の散歩で浜を歩く人々がウミガメの産卵痕跡に興味がある方もいらっしゃるようです。そこで本年より、奄美大島でウミガメの調査に携わる行政や調査者、地元の方等と連携をし、奄美大島を中心にウミガメのネットワークづくりを行う予定です。奄美在住の方や興味のある学生がいらっしゃれば、ぜひご連絡ください。一緒にウミガメの調査をしていきましょう! 写真は加計呂麻島徳浜にて90歳までウミガメの調査をおこなっていた川淵氏。

連絡先：水野康次郎 mizuno@umigame.org

〒894-1522 鹿児島県瀬戸内町大字嘉鉄311-6

三重県紀宝町「紀宝町ウミガメ公園」より

紀伊半島では、昨年9月の台風12号により川の氾濫、土砂崩れなどで、人的に大きな被害が発生しました。幸いなことにウミガメ公園がある紀宝町井田地区はそこまで大きな被害はありませんでした。しかし、ウミガメが産卵する紀宝町の井田海岸（七里御浜）には、熊野川から流れ出た大量の流木やゴミが流れ着きました。また、砂が2～3mの高さで削り取られる場所もあり、数カ所の産卵巣は行方がわからなくなるほどでした。現在では、浜のゴミは撤去されて、元の姿を取り戻しつつあります。今年もアカウミガメが産卵に訪れてくれることを祈って、紀宝町のウミガメ保護監視員の方と協力しながら調査を行っていこうと思います。写真は紀宝町井田海岸の台風通過後のものと現在の浜のようすです。



両前肢の一部を失ったアカウミガメの悠ちゃんに人工ヒレを! 悠ちゃんプロジェクト2011

2008年6月、紀伊水道でサメに両前肢の大部分を食いこぎられたアカウミガメが捕獲されました。悠ちゃんと名付けられたそのアカウミガメに人工のヒレを作ってあげようというプロジェクトが2009年に立ち上がってからこれまで、(株)川村義肢・松田靖史氏、東京大学・佐藤克文氏、大阪大学・加藤直三氏らの協力の下、19種類の人工ヒレ装着に挑戦してきました。

ウミガメの前肢は遊泳力を生み出すために、非常に弾力があり、しなやかな構造になっています。そのため、これまでどのように装着したら、彼女の負担にならずかつ長期的に外れない人工ヒレを装着させることができるのか?ということが大きな課題でした。行き着いた装着方法は悠ちゃんに服のようなジャケットを着せて、ジャケットとヒレ部分を懸垂させるというものです。幾度となく装着、脱落、補正を繰り返し、昨年だけで10種類の人工ヒレ装着に挑戦しました。2012年2月26日の装着試験の人工ヒレ(第19モデル)では、比較的長期に装着させることに成功しました。装着方法が確立してきた次なる課題は、より遊泳力を生み出すヒレの形状を考えることにあります。外れないヒレの次は、より泳ぎやすいヒレの開発の挑戦です。

また、プロジェクト3年目の昨年は新たに京都大学の阪上雅昭氏にメンバーに加わっていただきました。新たな試みとしてこれから彼らには、人工ヒレを付けた悠ちゃんは果たして幸せなのか?ということを行動観察や遊泳速度等のデータから評価していただこうと思います。新たな試みに乞うご期待です。



ウミガメ捕獲に協力いただいたライフセービングクラブの方々



人工ヒレ(第13モデル)を装着した悠ちゃん



第19モデルを装着する(株)川村義肢の皆さん

携帯ストラップ&キーホルダー



各1個700円

ソフトラバー素材の携帯ストラップ&キーホルダーです。立体に浮き出た悠ちゃんイラストがポイント!

悠ちゃん基金にご協力をお願いします!

悠ちゃんがまた元気に泳げるようにしてあげたい!
みんなの願いを一日も早くカタチにするために、
「悠ちゃん基金」にご協力をお願いします!!

振込み口座はコチラ

池田泉州銀行 枚方北支店
(イケダセンシュウギンコウ ヒラカタキタシテン)
店番号: 045 口座番号: 0540977
口座名: ウミガメ義肢基金 代表者 亀崎直樹
カタカナ: ウミガメギシキキン

ゆうちょ銀行
口座番号: 00900-1-170710
ウミガメ義肢基金 カタカナ: ウミガメギシキキン

インターン活動報告 佐野 純也

ここで一年間学べば何かを掴めるのではないか。それが日本ウミガメ協議会でのインターンシップを決意したそもそもの理由です。4月から始まったインターン研修では主に事務局で活動しながら、黒島での実習や発見されたカメの調査を手伝っておりました。四国の視察に行った際には、高知県の室戸にて大きなウミガメの計測やタグ付け、エコーによる卵胞の確認など数多くの貴重な経験もさせていただきました。学んできた全てを土台にし、自分の成長を確信できたのも、全てはお忙しいながらも自分を支えてくれた日本ウミガメ協議会の方々のおかげであります。おかげ様で就職も無事決まり、今後も様々な形で協議会に貢献できていけたらと思います。



インターン研修を終えて 室田 貴子

私は約3か月間、日本ウミガメ協議会でインターン研修を行いました。主な業務であった全国のウミガメ産卵データをまとめる作業を通じて、ウミガメに関する基礎的な知識を得ることができました。また、11月に開催された日本ウミガメ会議で様々な人との出会いがあり、実りある研修となり大変感謝しております。今後はウミガメに関わる人々をテーマに、自身の研究を進めていく予定です。今回のインターン研修でご指導頂きました亀崎会長を始め、お世話になった皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



私の在り方をかえたCSOラーニング 中田 綾菜

ウミガメ協議会でのインターン活動では、たくさんの人に支えられながら多くのことを学びました。時に叱られ、時に褒められ、時にカメたちに癒されながら活動を行ってきました。いかに自分が無力な人間であるかを痛感し、それと同時に変わりたいと強く思うきっかけを与えてくれたのが、主にやらせていただいていた協賛広告を取るお仕事です。これは何物にも代えられない素晴らしい経験となりました。本が書けるほどの失敗を起こした私を見捨てずに指導して下さった協議会の方には本当に感謝しています。ウミガメのことを考えるように私の将来についても考えてくれた、日本ウミガメ協議会はウミガメにも若者にも正面から向き合う素晴らしい団体だと思います。私の在り方を変えた、つまり人生を左右する経験くれた協議会でのインターン。いろんなことがありましたが、今まで生きてきたどの部分よりも充実していて最高の期間であったと思います。このような制度に参加できて、私は本当に幸せ者です。

インターン募集中!

実際に就職する前に、あるいは在学中に休学する形で、当会のスタッフになっていただき、業務を学んでいただくことができます。文書の作成、フィールドワーク、データの収集管理など、日常の業務を身に付けていただきます。また、インターンシップの過程で、適職を見つけ就職されることも可能です。

事務局の主な動き (2011年1月～2011年12月末まで)

- 1月15日 関西鹿児島県人会新年互礼会に出席
- 1月21日 千葉県船橋にあるカイルインターナショナルスクールで講演
- 1月22日 四国地区ウミガメ情報交換会開催
- 1月25日-27日 サイパンでアオウミガメワークショップ開催
- 1月27、28日 三井物産環境基金活動助成2010年度交流会開催
- 3月4日 小笠原で「人工ふ化放流事業100周年記念シンポジウム」開催
- 4月12日-16日 国際ウミガメシンポジウムに参加
- 5月21日 平成23年度徳島アカウミガメ上陸・産卵調査講習会を開催
- 7月16日 「イルカwith Friends Vol.7」に出展
- 7月29日-31日 平成23年度相良自然環境塾を開催
- 8月27日 みなべ町千里浜でLionさんとふ化率調査Part 1
- 9月16日 後藤清氏・吉崎和美氏 平成23年度自然公園関係功労者環境大臣表彰
- 9月24日 みなべ町千里浜でLionさんとふ化率調査Part 2
- 10月2日 神戸空港で開催された「空の日イベント」に出展
- 10月2日 IUCN種の保存委員会Marine Turtle Specialist Group(MTSG)の会合に出席
- 10月23日 「室戸くろしお祭」&「のいちの森の文化祭」に出展
- 11月6日 「まあるい地球コンサート2011」に出展
- 11月12日 2011年徳島アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催
- 11月18日-20日 第22回日本ウミガメ会議(沖永良部島会議)開催
- 12月15日-17日 エコプロダクツ2011に出展



ご寄付を頂いた方々 まで2011年1月1日～2012年3月31日まで

森野和則 吉川信博 坂本亘 齋藤敏郎 渡辺ゆみ子 木村ジョンソン (有)ジュネ シャディ (株) エコポイント事務局 ヤフー (株) (株) アール.エス 松平洋子 株式会社みや エムズディーエス 串本海中センター野村恵一 金井澄 (株) エニシル 小林茂夫 江口英作 安田十也 ビーチアンキョウクミ) グランドショップアツミ 須之部友基 ビーチアン 住宅エコポイント事務局 近藤康男 NPO法人パグリックリソースセンター カロラータ (株) エッチング工房 Asai 日和佐うみがめ荘 環境パートナーシップエコポイント事務局 玉井一壽 波多野真樹 太田尚子 九埜勝家 大地昭 一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン ビレットジャパン株式会社 太田美代子 中本真理子 南知多ビーチランド 吉崎和美 諸見里まき 荒隆夫 前田直美 福原富士美 坂東武治 後藤清 奥田恭子 藪田慎司 種子島ハウオリ 玉岡昇治 大牟田一美 日新堂印刷株式会社 山田輝一 清水紀代美 富士原容子 増永望美 阿郷絹代 佐藤弘子 須之部友基 紀宝町ウミガメ公園 ハピネスネオ星の里 横田好秀

(順不同・敬称略)

Seaturtle goods shop



① フォトフレーム
② ポストカード
③ リボンマグネット Sサイズ
④ プチサークル
⑤ プチトライアングル
⑥ プチパナー
⑦ プチリボン

7つセット



新商品!リボンフォトフレームHONU ¥1,050(税込)

新しく仲間入りしたフォトフレーム一体型マグネット。ポストカードと6種類のマグネットが付いているのでお得です。ピンクとブルーを基調にしたカラフルな色使いがとってもかわいい。

インターネットでお買い物

うみがめグッズがインターネットショップからご購入いただけます。オリジナルグッズのご購入はもちろん、会費のお支払いやご寄付にもご利用いただけます。お支払いは代引き、各種クレジット、ネットバンキング、当会イーバンク口座等からお選びいただけます。

<http://seaturtle.shop-pro.jp>

カラー写真を見たい方はインターネットショップに掲載していますので右記のサイトをご覧ください。見られない方にはカタログをお送りしますので下記までご連絡下さい。

日本ウミガメ協議会 事務局

Tel:072-864-0335 Fax:072-864-0535

Mail:info@umigame.org

◆ STSmembers募集中!

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。日本ウミガメ協議会では、当会をサポートして下さるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非入会をお誘い下さい。

入会金:なし、年会費:個人会員3,000円、学生会員1,000円、団体会員10,000円、特別会員100,000円
会員特典: オリジナル会員証&グッズ、機関誌

◆ STSmembers更新手続きについて

これまで会員更新の書類は、マリンタートラーに同封しておりました。しかし今後は、会員期限終了月に更新のご案内を送付させていただきます。会員の皆様のご支援で、ウミガメやそれを取り巻く環境を保全してゆくことができます。更新月を迎えられる会員の皆様は、是非とも更新して頂ければ幸いです。今後とも当会をよろしくお願い致します。

なお、すでにご登録いただいている内容に変更がございましたら当会までご一報ください。

編 集 後 記

2011年度はサイパンでのアオウミガメワークショップへの参加に始まり、米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された国際ウミガメシンポジウムの参加、IUCN種の保存委員会 Marine Turtle Specialist Group (MTSG) の会合に出席等、協議会にとって充実した一年になりました。悠ちゃん義肢プロジェクトもジャケット型へと改良が加えられ益々進化を遂げています。また恒例となったイルカさんのコンサートやエコプロダクツ出展の際には、ウミガメ好きのたくさんの方々との交流することが出来、皆様の温かいご支援も実感できました。2012年もウミガメの調査や研究、イベント出展等、ますます活動の場を広げて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

編集担当:宮原尚子

マリンタートラー(日本ウミガメ協議会機関誌)

発行日 2012年5月31日
発行 日本ウミガメ協議会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

電話:072-864-0335 Fax:072-864-0535

URL <http://www.umigame.org> E-mail info@umigame.org

